

第130回経営協議会議事要旨

日 時： 令和7年10月23日（木） 10:00～11:15

場 所： 山口大学事務局1号館4階 特別大会議室（オンライン会議システムGoogleMeet 併用）

出席者： 谷澤、松野、進士、上西、葛、溝部、原山、ルール、石井、鍋山、佐藤

今村、恵良、岩崎、川上、丸山、棕梨、山本（佳）、山本（謙）、吉武

欠席者： 七村、松永、木村、齋藤、桜井、末永、田子、平屋

がざー： 福田、木村

議 題：

I. 議事要旨の確認

学長から、第129回経営協議会の議事要旨の確認があり、原案のとおり了承された。

II. 審議事項

1. 授業料改定について

学長から、授業料改定について、審議資料1-1～1-3に基づき説明があり、審議の結果、原案のとおり了承され、役員会に付議することとなった。

（主な意見及び質疑応答は次のとおり ○は学外委員、◇は学内委員）

○授業料改定に関する学生説明会において、常盤キャンパス（工学系）よりも吉田地区の学生からの意見が多かった理由を問いたい。学生が自身の学費問題（将来の修士課程進学者への直接的な影響）よりも、大学の運営や大学全体を良くすることに関心が強いのではないかと。

◇常盤キャンパスや小串キャンパスの参加者は予想より少なかった。理由としては、授業料の改定が直近の在学生には影響しないため、情報浸透が不十分であったか、当事者意識が低かった可能性が推測される。ただし、意見はご意見フォームを通じて多様な所属の学生から寄せられており、幅広い意見を伺うことができたことと認識している。

○今回の改定だけでは山口大学の財政の持続可能性が完全に担保されるわけではない。これを機に、学内で経営財政の持続可能性の確立に向けた議論を深めるべきではないか。また、山口大学のような地方の大学こそ、一定の規模を維持し、地域と連携しつつ、全国から学生を引きつけることができる大学となるための議論を行うべきである。

○経営的な観点から、授業料改定により得た増収分を学生の教育環境改善に充てるという姿勢を強く打ち出し、実行していくべきである。実施状況については、経営協議会として、今後も確認していく。

III. 報告事項

1. 地方大学・地域産業創生交付金における計画作成支援事業の申請について

上西理事から、地方大学・地域産業創生交付金における計画作成支援事業の申請について、報告資料1-1及び1-2に基づき説明があった。

【配付資料】

第129回経営協議会議事要旨（案）

<審議資料>

1-1 授業料改定

1-2 授業料改定に関する学生説明会（概要）

1-3 「ご意見フォーム」に寄せられた授業料改定へのご意見の概要

<報告資料>

1-1 地方大学・地域産業創生交付金における計画作成支援事業の申請

1-2 山口県半導体マテリアルエコシステム形成計画